

2011年(平成23年)8月4日(木曜日)

建設業の出雲土建(出雲市)は、自社開発した木炭製品「炭八」について、天井裏などに敷き詰めることで、冷房時に約20%節電する効果を実証したと発表した。島根大総合理工学部(松江市)と共同研究した。マシンションや一戸建て住宅向けに売り込む。

出雲市の中筋3階建てマンションの1階にある1室

天井裏に木炭 冷房20%節電

出雲土建と島根大実証



節電効果が確認された炭八を手にする石飛社長

相当するという。

同社と島根大は、炭八の持つ断熱作用が原因とみている。石飛裕司社長は「これまで好評だった調湿作用とともにPRし、販売拡大のきっかけにしたい」と意気込む。

炭八は、住宅解体時などに発生する廃木材を独自技術で炭化した製品で、2002年に販売を開始。11年5月期決算では全国の住宅(約23平方㍍)の天井と床と、敷設していない1階の下に6月8~28日、炭八計500kgを敷設した。室温少なかつた。電力料金では1度で冷房を運転し続ける月800円以上のカットを見込んでいる。(樋口浩二)

独自開発住宅向け販売強化

(約23平方㍍)の天井と床と、敷設していない1階の下に6月8~28日、炭八計500kgを敷設した。室温少なかつた。電力料金では1度で冷房を運転し続ける月800円以上のカットを見込んでいる。(樋口浩二)